

実践！ コンサルティング 営業 第42回

1級ファイナンシャル・プランニング技能士
有限会社ブランドウー取締役社長 ●山田正孝

「変換制度」を活用した 保険提案

若き後継者へのコンサルティングには、 将来の見直しを前提とした柔軟なプランを！

保障を考えると、収入と保険料負担のバランスをどのようにとるかは大きな問題です。将来、保険料を気にせず自由に保険に加入できる経済的余裕が持てたとしても、それまでに病気になるまで。そう考えて、今のうちに多少無理をしても手厚い保障を求める人は多いようです。しかし、最低限必要な保障額は確保するけれど、ある一定期間は保険料を抑えてその分、資金の有効活用を図る、という考えも選択肢の1つとしてあります。今回は、あまり知られていない「変換制度」を話法に取り入れたケースを紹介いたします。

顧客プロフィール

メンズショップKAWADA

地方都市の商店街の路面店（個人事業所）。メンズ洋品や雑貨を扱う小売業。事業主以外は、従業員1人、アルバイト1人の規模。

事業主 河田美子 55歳

3年前に夫が急死し、配偶者である美子が事業を引き継いだ。慣れないこともあり売上げの減少が続いている。そんなとき、大学を卒業した長男・直樹が店を手伝ってくれるようになった。長女（26歳）は昨年結婚し、郊外で生活。

従業員 河田直樹 22歳

河田美子の長男。悪戦苦闘している母の姿を見て、家業を継ぐ決意を固める。商店街の2代目、3代目店主と勉強会を毎週開催し、1～2年以内に店の大改装に取り組みたいと思っている。

※変換制度の取り扱いには保険会社によって異なります。本稿は一例を示したものですので、詳細は取り扱い各社にお問い合わせください。



今月のFP

森山悟史◎45歳

アパレル企業を退職後、CFP®資格を取得し独立。生損保の乗合代理店を兼ねながら、相談業務や出張講師、セミナー開催等を主な業務としている。



予期せぬ依頼

FPの森山悟史がメンズショップKAWADAを利用するようになったのは、店の経営者である河田美子さんと地元の経済団体の新年会で知り合ったのがきっかけだ。幹事の紹介で名刺交換をしたところ、森山の仕事について話題になり、河田さんがFPの資格に非常に興味を持ったのだ。

「今度困ったことがあったら相談させてもらおうかしら」

「わたしも洋服を買うときは利用させてもらいますよ」

たぶんに社交辞令も入っていたが、事務所から近かったこともあり、その後たびたび利用するようになったのだ。

ある日のこと。メンズショップKAWADAに立ち寄った森山は、たまたま他にお客さんもいなかったため河田さんととりとめない雑談を交わしていた。ふとショーウィンドウの方を眺めると、見慣れない若い男性がディスプレイを取り替えている。森山は何気に尋ねた。

「新しい従業員さんが入られたのですか」

「まあ、やだ。あれは息子よ」

河田さんの話によると、今年から長男の直樹さんが大学卒業と同時に家業を手伝ってくれているとのことだった。森山は河田さんに向き直り、満面の笑みで話しかけた。

「息子さんが続いでくれるのなら、こんな心強いことはないですね」

「そうですね。でも商店街の勉強会に顔を出すようになったら、コンセプトがどうか難しいことを言ってくるのよ」

「良いことじゃないですか。やる気のある証拠ですよ。今、後継者に悩んでいるお店も多いですから」

「そうなんだけどね。でも、学校を出たばかりでまだ役には立たないのよ」

と言いつつも河田さんはまんざらでもなさそうであった。母に代わってはりきって働く息子の姿を頼もしく思い、期待していることが見て取れた。

思いのほか会話が弾んだが、営業中であることを思い出した。森山が失礼しようと立ち上がったとき、突然、河田さんから相談を持ちかけられた。

「FPって生命保険のことも相談できたわよね」

「はい。何かお困りですか」

レジの脇に立てかけてあるP生命の封筒が森山の目にとまった。いずれ店を継ぐ長男のために保障をと、河田さんが考えていたところ、つきあいのあるP生命の営業担当者から提案を受けたそうだ。ところが意外と保険料が高く、返事をためらっていたところに偶然、森山が訪ねてきたということだ。河田さんからもっと保険料の安い保険はないかと尋ねられた森山は、次のように答えた。

「保険の種類や将来の設計をどう考えるかによって、保険料は変わってきますよ」

「今度時間を取るから、相談させて」

予期せぬ依頼であったが、森山は喜んで引き受けることにした。P生命の設計書のコピーを預かり、あらためて次の定休日に訪問することとなった。

プラン作成にあたって

再訪問したところ、直樹さんは商店街の集まりで不在だったが、河田さんから以下の点が確認できた。

◆現状の確認

- 住居兼店舗に、河田美子さん（55歳）と長男の河田直樹さん（22歳、未婚）の2人で居住
- 夫が3年前に急死（享年55歳）し、その後は配偶者である河田さんが事業主となり、店の営業を続けている
- ここ数年、売上げは減少傾向にある
- 長男が家業を継ぐため、今年から従業員となった
- 当面は、河田さんが事業主を継続する

河田さん自身の保障に関しては、夫が亡くなったときに世話になったP生命で加入済みとのことだった。それを聞いて森山は、得心した表情を浮かべた。

「それで直樹さんの設計書もP生命だったのですか」

「ええ、主人のことがあったから…」